

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	出会いの場Leo		
○保護者評価実施期間	令和8年3月16日		～ 令和8年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人の発達状況や特性を踏まえた支援を行い安心して活動出来る環境作りに努めている 小集団活動と個別支援を組み合わせることで社会性の育ちと個々の課題への支援の両面を大切にしている。	個別支援計画に基づいた支援の質の向上を図っている。 支援内容について職員間で共通理解を図りながら支援を行っている。 子どもの体調や気持ち、その日の状況に応じて活動内容を柔軟に調節し、無理のない支援を心がけている。	毎月ケース会議を実施したり、スタッフ間で話し合いを都度行うなど、よりきめ細やかな支援の充実にも努めている。 日々、事故防止や安全面に配慮しながら環境整備を行い安心して活動出来る環境づくりをさらに充実していく。
2	信頼関係の構築に努め、保護者との適切な距離感を保ち情報共有ができています。 日常的なコミュニケーションを大切に、保護者が安心して相談出来る関係づくりに努めている。	送迎時の日々のやりとり、連絡帳を通して、家庭での様子や事業所での様子を相互に共有出来る体制を整えている。 保護者から家庭での様子や気になる点を聞き取り、事業所での支援に反映できるよう情報共有を行っている。	継続的な情報共有を通してより効果的な支援に繋げていくことが期待出来る。 定期的に面談や相談の機会を設けるなど、保護者が安心して相談出来る体制の強化を図っていく。
3	季節行事やイベントを積極的に取り入れ、子どもたちが楽しみながら様々な体験ができる機会を設けている。 日常の活動では得られにくい経験や集団での活動を通して社会性や協調性を育む機会となっている。	子どもの発達段階や特性に配慮し、無理なく参加出来る内容となるよう工夫している。 保護者にも参加を募ったり、活動の様子が伝わるよう写真や連絡帳を通して、一緒に成功体験、達成感を感じられる機会づくりを大切にしている。	地域の行事や外出活動をさらに取り入れながら、子どもたちの経験の幅を広げる取り組みを検討していく。 保護者参加型の行事や交流の機会を設けることで家庭と事業所が連携しながら子どもの成長を支えていく取り組みの充実を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の多様な発達特性に対応するため、より専門的な知識や支援技術の向上が求められる。 職員間で療育に関する知識や経験に差がみられる為支援内容の質の均一化が課題である。	経験年数、支援方法や知識量に差が生じているため。	研修への参加や事例検討などを通して、職員の専門性のさらなる向上を図っていく必要がある。
2	指導室のスペースが限られているため、活動内容によっては十分な環境を確保することが難しい場面がある。 基準に基づく職員配置は満たしているが、出席人数の変動や月齢・発達特性により、職員の数を増やした方が良いと感じる場面がある。	事業所の構造上の制約や利用児童数の増加により活動内容によっては十分な空間を確保することが難しいため。 より丁寧な個別支援を行う上で体制強化が課題となっている。	活動内容の工夫や環境設定の見直しを行い、より安全で効果的な支援環境の整備に努めていく必要がある。 業務の効率化や人材確保を含め、安定した支援体制の整備を検討していく必要がある。また支援の質の向上を図る為にも、柔軟な職員配置と事前調整が必要。
3	近隣の保育園や関係機関との交流・連携の機会が十分とは言えない。	感染症対策や日常の活動を優先していることから、外部との交流機会が限られているため。	情報交換や交流の機会を設け、地域との連携強化を図ることが課題である。